

ソーシャルメディアとクラウドサービスを活用した 情報リテラシー教育の課題と展望

An Issue and Vision of Information Literacy Education By Practical Use of Social Media and Cloud Services

河野 義広^{*1}

Yoshihiro KAWANO^{*1}

^{*1} 東京情報大学

^{*1} Tokyo University of Information Sciences

Email: ykawano@rsch.tuis.ac.jp

あらまし：近年，スマートフォンやタブレット端末の普及により，ソーシャルメディアやクラウドサービスの利用が一般的となった。これらは情報共有や他者との交流，人脈作りに活用される一方，情報モラルや情報セキュリティの面では課題がある。東京情報大学では，2013年度より実践的な情報リテラシー教育に取り組んでおり，学生が主体性を発揮できるための情報収集・発信能力の向上に努めている。本稿では，2014年度の取り組みを中心に，情報リテラシー教育の課題や今後の展望について述べる。

キーワード：情報リテラシー，ソーシャルメディア，クラウドサービス，パーソナルブランディング

1. はじめに

近年，スマートフォンやタブレット端末の普及により，ソーシャルメディアやクラウドサービスの利用が一般的となり，Google や Dropbox, Evernote などのクラウドサービスが広く一般にも利用されるようになった。加えて，Twitter, Facebook, LINE などのソーシャルメディアの利用者は日々拡大しつつあり，友人や知人との交流，新たな人脈の開拓やビジネスチャンスの獲得などに活用されている。

このように，我々の身の回りはかつてないほどの情報に溢れており，情報の取捨選択や真偽の見極め，社会生活とのバランスは，人々にとって身近な課題であると同時に，関心の高いテーマといえる。その一方で，Twitter 上での不用意な書き込みによる炎上，Facebook 上での公開範囲設定や写真へのタグ付けによる意図しない個人情報流出，LINE での既読無視やグループ外なども問題視されている。このように，ソーシャルメディアは，情報共有や他者との交流，人脈作りに活用される一方，情報モラルや情報セキュリティの面では課題がある。ソーシャルメディアを賢く活用するための知識・スキルは，ソーシャルメディアリテラシー⁽¹⁾とよばれ，企業内の社員研修や学校教育などでも関心の高いテーマである。

東京情報大学では，2013年度よりソーシャルメディアやクラウドサービスの活用を通じて，情報共有の仕組み，情報収集・発信のための情報リテラシーについて実践的に学習する授業を行っている⁽²⁾。本稿では，2014年度の取り組みを中心に，情報リテラシー教育の課題や今後の展望について述べる。

2. 情報リテラシーⅡの授業概要と意義

東京情報大学では，2013年度の学部学科改組により1学部1学科12コース制へと移行した。文系・理系にとらわれない幅広いテーマ選択により，学生の興味や個性を活かしながらそれぞれの専門性を深めることを目指している。改組に伴いカリキュラムにも変更があり，1年次後期必修科目として『情報リテラシーⅡ』

が新設された。なお，既存の前期「情報リテラシーⅠ」では，PC やネットワークの設定，Office ソフトの活用方法に関する授業を行っている。それに続く情報リテラシーⅡでは，ソーシャルメディアとクラウドサービスを取り上げ，「学生一人ひとりが自らの目的に応じた使い方を考えられること」を目的とする。各サービスの特徴を理解した上で，自身の目的とそのための使い方を見出すことは，今後の社会を生きていくための必須スキルといえる。以下に授業要と到達目標を示す。

<授業概要>

ソーシャルメディアやクラウドサービスの活用を通じて，情報共有の仕組み，情報収集・発信のためのリテラシーについて実践的に学習する。

具体的には，Twitter や Facebook などのソーシャルメディア活用演習，クラウドサービスを活用したブログ作成演習を通じて，情報発信の意義と人脈作り，パーソナルブランディング（自分の理想と周囲からのイメージを一致させるためのすべての活動）の考え方について学ぶ。これらの実践演習により，『自分で未来を設計し，人生を切り拓く力』の醸成を目指す。

<到達目標>

ソーシャルメディアやクラウドサービスの活用を通じて，インターネット上での情報共有の仕組み，適切な情報収集・発信のためのリテラシーを理解し，社会のあり方，出来事を知るための情報感度を高める。

本授業では，Twitter, Facebook の活用を通じて，学生が自分なりの考え方を身に付けることが目的である。本授業で学生に期待することは以下の2点である。

- (1) オープンなコミュニケーションを体験する
- (2) トラブルへの対処能力を養う

現状，多くの学生は，限られた友人とのプライベートなコミュニケーションが中心である。実際にはオープンなネットワークであるはずの Twitter であっても，仮名でのプライベートな使い方の学生が多

い。今後、彼らが社会に出る頃には、様々な人達と付き合うようになり、そこには学生時代の友人だけでなく、職場の上司や同僚、所属するコミュニティの人達など、多様な人々がいることが推測される。そのような多様な人達と付き合う際には、オープンな場でのコミュニケーションスキルが求められる。

そこで、ソーシャルメディアを実際に体験することで、情報発信や人脈作りなどを通じた将来の活動に役立つスキルを身に付けることが重要である。このような実体験を通じて、よい面、悪い面も含めて体験した上で、自分の頭で考えることが大切である。

次に、トラブル対応については、普段からソーシャルメディアを使っていなければ、対処方法を知る術は何もない。場合によっては、自分自身がターゲットにされていることさえ気付くことができない。ここにソーシャルメディアを正しく活用することの意義がある。

3. 情報リテラシー教育

3.1 2013年度の反省点

2013年度は、1年次必修科目として470名が受講した。複数の教員が協力しながら、8クラスを運営する。その中で以下の課題が確認された⁽³⁾。

- (1) クラス間での授業進行の違い
- (2) ソーシャルメディアに抵抗感のある学生へのフォロー
- (3) 作業が早い学生向けの内容
- (4) 各アカウントの事前準備

上記(1)について、470名の受講者を8クラスに分けて授業運営を行った。教材は各クラス共通のものを利用するものの、すべての教員が日常的にソーシャルメディアやクラウドサービスを利用している訳ではない。加えて、初年度は授業方針を固めながら運営したため、クラス間での授業進行に差が生じることが多かった。円滑な授業運営のためには、教員間での授業方針や課題の共有が必要となる。また、学生にソーシャルメディアの魅力や留意点を伝えるためには、教員自身がTwitterやFacebookを活用し、自ら実感することが望ましい。

(2)に対応するため、授業運営の取り組みとして、授業に関する意見や質問をTwitterのハッシュタグ(#tuis_literacy2013)で募集した。授業に関する要望を収集すると同時に、学生にインターネット上のコミュニケーションについて慣れてもらう意味もある。その際に、教員は適宜フォローを行った。授業のハッシュタグが付加されたツイートの一部を図1、2に示す。学生からは授業で取り扱って欲しいテーマや分からないことに関する質問、授業の要望や改善点など有用な意見が得られた。その一方で、一部の学生による授業の不平不満や批判、授業の内容と関係のない雑談、授業放棄を吐露するような発言が散見した。炎上とは言わないまでも、本学の授

業の取り組みとしてインターネットに公開されることから、教員の頭を悩ませる原因となった。ハッシュタグの是非も含め、防止策の徹底、成績評価への反映などの対策を講じる必要がある。

一方、Twitter上で適宜フォローは行ったものの、Facebookでの実名登録に抵抗のある学生は一定数存在することは確かである。ソーシャルメディアに抵抗感のある学生に対しては、Facebookに個人情報を登録して他者と関わる理由、それを授業で取り上げることの意義を説明する必要がある。座学だけではなく、実際に体験することで、自分なりの使い方や考え方を学んでいくことが必要となる。本学の教育理念「現代実学主義」は、経験や実践を重視する方針であり、この理念に沿った授業が求められる。



図1 授業のハッシュタグのツイート1



図2 授業のハッシュタグのツイート2

(3)について、授業内で行う演習では、作業の早い学生と遅い学生とで進度に差が生じ、早い学生の中

には不満を持つ者も見られた。作業の早い学生向けの演習課題，習熟度別クラスの検討する。進度の差は，アカウント作成の際に顕著に見られた。進度の遅い学生をフォローしつつ，一方では早い学生が退屈にならないような授業運営が求められる。

(4)について，学内から外部の Web サイトにアクセスする際，プロキシによりすべての端末が 1 つの IP アドレスに集約されてしまう。そのため，同時に多数の端末から操作を行う場合，サイトによっては攻撃と見なされ，処理が中断されてしまう現象が発生した。例えば，Twitter や Facebook，Google のアカウント登録，Google グループの作成，Blogger でのブログ開設で発生した。この現象は授業実施前から既に確認されており，学生には宿題として事前のアカウント登録を促していた。しかしながら，授業当日までに作業が完了していない学生が全クラスで数十～100 人以上の規模となり，アクセスが集中する原因となった。授業運営の工夫やネットワークの対処などが必要と考えられる。

3.2 2014 年度の授業運営

初年度である 2013 年度の反省点を踏まえ，2014 年度は以下の対策を講じた。

- (1) 演習内容の優先順位の共有
- (2) 各アカウントの削除方法の提示
- (3) クラス毎のハッシュタグの運用
- (4) 上級クラスの設定 (1, 2 限 1 クラスずつ)
- (5) 各アカウントの事前準備の徹底

(1)について，前節の課題(1)の対策として，演習内容に優先順位を付け，各クラスで共有した。例えば，「代表的なクラウドサービスの調査」や「Facebook の利用に関するグループディスカッション」，「Google ドライブによるアンケート作成」など，各演習内容に対して A (必須)，B (できればやるが，残れば次週)，C (できなければやらない) の優先順位を付け，それを各クラスで共有し授業を実施した。加えて，演習の手順や実行画面の追加などの授業資料の更新を行うとともに，アカウント作成といった時間を要する演習はすべて宿題として対応した。その結果，授業資料自体の分量が減少し，各回の授業進行にも余裕ができた。

(2)について，課題(2)の対策として，本授業の最終回で各アカウントの削除手順を示した。ソーシャルメディアは，実際に体験しない限り，よい面も悪い面も実感することはできない。トラブルへの対処方法を知る術もない。実際に体験して，自分には適さないと判断すれば，授業終了後のアカウント削除は個人の自由であることを伝えた。これと関連して，(3)について，Twitter のハッシュタグは，クラス毎に運用した。クラス間での学生同士の交流は減少したが，不用意な投稿が報告されることはなかった。

(4)について，課題(3)の対策として，8 クラス中 2

クラスを上級クラスとし，学生の進度にあまり差が生じないように配慮した。前期の情報リテラシー I の最後の回にクラス分けのためのアンケートを実施した。アンケートの質問項目は，ソーシャルメディアの認知度，利用頻度，利用目的，インターネットに関するスキル，実名登録に対する抵抗感である。学生のソーシャルメディア利用状況を参考に，特にインターネットに関するスキルに着目して上級クラスを選別した。図 3 は，インターネットに関するスキルの集計結果である。概ね 7 個以上に該当する学生を上級クラスに選別した。上級クラスは比較的少人数とし，ソーシャルメディアの熟練教員が担当することで，質問や要求に対応できるよう配慮した。

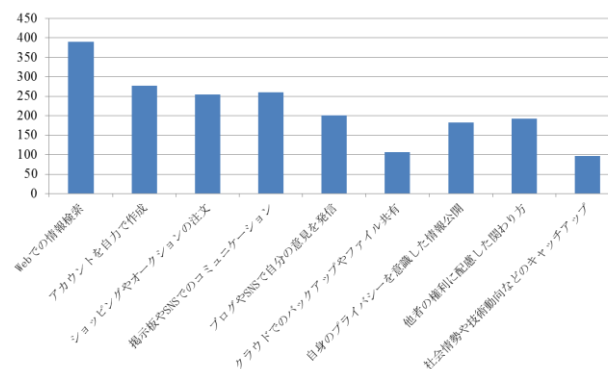


図 3 インターネットに関するスキル

(5)について，(1)でも述べたとおり，各アカウントの事前準備は宿題とした。ガイダンス時に必要な作業を提示し，当該授業回までの毎回の授業にて，アカウントの確認作業を徹底した。これを踏まえ，2014 年度の授業計画を以下に示す。

<授業計画>

1. ガイダンス
 - ・授業で利用するサービスの紹介
 - ・メールの転送，設定，マナー
 - ・ソーシャルメディア・ガイドライン
2. HTML 文書作成 応用編(1)
 - ・HTML5 と CSS3
3. HTML 文書作成 応用編(2)
 - ・Web サイト作成演習
4. クラウドサービスの基礎
 - ・クラウドの概要，各種サービスの紹介
 - ・Google アカウントの作成
 - ・Google グループの基礎
5. ソーシャルメディア(1)
 - ・ソーシャルメディアの概要，仕組み
 - ・Twitter の登録，基本操作の説明
6. ソーシャルメディア(2)
 - ・Facebook の登録，基本操作の説明
 - ・プライバシー設定，情報の公開範囲
7. ソーシャルメディア(3)
 - ・Twitter と Facebook の特徴の違い

- ・ソーシャルメディアリテラシー (1)
 - ・モラルやマナー, セキュリティ意識について
8. 中間のまとめ
 - ・小テストと解説
 9. クラウドサービスの応用(1)
 - ・Google グループ, ドライブの活用
 10. クラウドサービスの応用(2)
 - ・CMS (Contents Management System) の紹介
 11. クラウドサービスの活用(1)
 - ・ブログ作成演習(1)
 12. クラウドサービスの活用(2)
 - ・ブログ作成演習(2)
 13. ソーシャルメディア(4)
 - ・ソーシャルメディアリテラシー (2)
 - ・パーソナルブランディング
 - ・コース選択に向けて
 14. ソーシャルメディア(5)
 - ・ソーシャルメディアの使い分け
 - ・地域・社会での活用事例
 15. まとめ
 - ・各ソーシャルアカウントの削除方法

上記計画について, 第1回ガイダンスでは, 本授業で利用する Google, Twitter, Facebook の各アカウントの作成手順や留意点を示した。さらに, 第2, 3回目に HTML 演習を配置することで, Google の演習までに3週間の猶予を設けた。また, 各アカウント作成を宿題としたことで授業運営に余裕ができたため, 2013年度はソーシャルメディアが全6回であったのに対し, 2014年度は内容を整理して全5回とした。余裕ができたことで, それ以外で授業内容の分量が多い箇所を調整することができた。

ブログ作成演習に関しては, 計画上は第11回であったが, 習慣化させる意図を込めて, 運用時は第7回に配置した。これにより, 毎週の授業の感想をブログに掲載することが習慣化され, 各学生はブログ上で数本の記事を得ることができた。

3.3 情報リテラシー教育の課題と展望

前節までの議論を踏まえ, 情報リテラシー教育における課題を以下に示す。

- (1) 教員側のソーシャルメディア活用スキル
- (2) 学生がソーシャルメディアを習慣的に利用する仕掛け
- (3) 疑問点や悩みについて相談・議論ができる場

(1)について, 教員側の活用スキルは必須といえるが, 現状で多くの教員が持つとは言い難い。今後は, 教員側に対するリテラシー教育や, ディスカッションを円滑に進めるためのファシリテーション能力の訓練が要求されると考える。

(2)について, 学生がソーシャルメディアに対して, 「やらされ感」を持つような授業ではなく, ソーシャルメディアを利用するモチベーションを意識し

た演習が要求される。例えば, 学生の収集心や好奇心に着目しゲーミフィケーションを取り入れた授業支援システムの開発, 学生が興味を持つようなサービスやアプリの紹介, 学外での研修やイベントとの連動した企画, などが考えられる。

(3)について, 学生がソーシャルメディアの利用に関して, 悩みや議論を抱えているときに, それを相談したり議論したりできる場を提供する必要がある。学生同士で相談できる場所の設置や学生メンターの配置, 学内 SNS を使ったコミュニケーションツールの導入などが考えられる。

4. まとめ

本稿では, 2013年度に開講した情報リテラシーIIの授業について, 2014年度の取り組みを中心に, 情報リテラシーの課題と展望について述べた。本授業は, ソーシャルメディアやクラウドサービスの活用を通じて, 情報共有の仕組み, 情報収集・発信のためのリテラシーについて実践的に学習することを目的としている。

2014年度は, 前年度の課題を踏まえ, 演習内容の優先順位の共有, 上級クラスの設置, 各アカウントの事前準備の徹底などを行った。その結果, 円滑な授業運営については改善が見られた。今後は, 教員のスキル向上, 学生のモチベーション維持, 相談や議論ができる場の提供などを行う予定である。

参考文献

- (1) 大元隆志: “ソーシャルメディア実践の書”, リックテレコム, 2011. 6.
- (2) 河野義広: “ソーシャルメディアの実践的活用を目指した情報リテラシー教育の運用と評価”, 教育システム情報学会 2014年度第1回研究会 (於放送大学), 2014. 5.
http://blog.marketing.itmedia.co.jp/yoshi_kawano/entry/404.html
- (3) 河野義広: “大学生に対するソーシャルメディアリテラシー教育の課題”, ITmedia マーケター通信, アカデミックが見た社会, 2013. 11.
http://blog.marketing.itmedia.co.jp/yoshi_kawano/entry/516.html